

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C141	C179	17-307	慶應義塾大学 加藤眞三
題名(原題/訳)			
Computer tablet or telephone? A randomised controlled trial exploring two methods of collecting data from drug and alcohol outpatients. タブレットコンピュータあるいは電話？ 薬物とアルコール依存外来患者からデータを集める2つの方法を調査する無作為対照臨床試験			
執筆者			
Hobden B ¹ , Bryant J ² , Carey M ² , Sanson-Fisher R ² , Oldmeadow C ³ .			
掲載誌			
Addict Behav. 2017 Aug;71:111-117.			
キーワード			PMID:
データ収集、疫学的方法、物質関連障害、タブレットコンピュータ、電話			28327379
要旨			
<p>目的 コンピュータおよび電話を利用した調査は研究データ収集のために潜在的な利点を持つ。本研究は、外来患者薬とアルコール治療クリニックに通院している依頼人のために、コンピュータ錠剤対電話データ収集の完了された調査で以下のこと、i) 実現可能性、(ii) 許容性、(iii) 費用を決定することを試みた。</p> <p>デザイン 2-腕無作為化対照試験。</p> <p>方法: New South Wales, Australia で薬物とアルコール依存外来診療所に通院している患者は2週以内にクリニックのタブレットコンピュータによるインタビューまたは電話インタビューでの調査を完了するためにランダム化された。すべての参加者は電話による3ヵ月間の追跡調査を完成した。</p> <p>結果 試験開始時の調査のための同意の率と調査の完成率はタブレットコンピュータの調査で有意に高かった。タブレットコンピュータ調査を完了するためにかかる時間(11分)は電話による調査時間(17分)より短かった。同意の率または追跡調査の完成率は3ヵ月後の追跡調査で2条件の間で差はなかった。許容性は、データ収集の両方の方法全体で高かった。タブレットコンピュータによる調査のコストは電話による調査より完了された調査当たり67.52ドル大きかった。</p> <p>結論 タブレットコンピュータと電話データ収集の間のトレードオフがある。双方のデータ収集方法が参加者に受け入れられ、タブレットコンピュータ調査は試験開始時により高度な同意と完成率を達成してより大きな外部有効性をもち、参加者にとって短い時間で完成した。しかしながら、電話データ収集はより費用効果的だった。研究者は、個々の研究ニーズを満たすデータ収集の方法を慎重に考慮しなければならない。</p>			